# 第１回 函館市地域福祉計画策定委員会　会議概要

**■日　時**

平成２５年７月１８日（木）　午後６時３０分～８時１５分

**■場　所**

函館市総合保健センター　２階会議室

**■報告事項**

１　函館市地域福祉計画策定委員会設置要綱について
２　第２次函館市地域福祉計画の概要等について
３　第２次函館市地域福祉計画の取組み状況について

**■協議事項**

１　正副委員長の選出について
２　第３次函館市地域福祉計画策定の進め方について
３　地域福祉に関する意識調査（案）について

**■出席委員（１５名）**

岡嶋委員，小笠原委員，風間委員，亀井委員，佐々木委員，髙田委員，髙橋委員，富樫委員，永澤委員，船橋委員，丸藤委員，三浦委員，宮本委員，八木委員，湯淺委員

**■欠席委員（３名）**

奥野委員，佐藤委員，外崎委員

**■傍　聴**

０名

**■報　道**

１社（函館新聞社）

**■事務局職員**

保健福祉部　種田部長，藤田次長
　　地域福祉課　佐賀井課長，亀田主査，石川主査，鈴木主査

■報告事項

事務局（亀田主査）
　－資料１，資料２，資料３の説明－

■協議事項

事務局（亀田主査）
　協議事項の「１　正副委員長の選出について」，委員会設置要綱第７条第２項の規定により,委員長は委員の互選により定めることになっているが,事務局としては,長年，地域福祉を専門に研究されている函館臨床福祉専門学校の三浦委員に委員長をお願いしたいと考えているが，いかがか。

　－意義なし－

事務局（亀田主査）
　異議なしの声があったので，委員長は三浦委員に決定する。
　次に副委員長の選出について，委員会設置要綱第７条第３項の規定により，２名の副委員長は，委員長が指名する委員をもって充てることとなっているので，委員長から指名をお願いする。

三浦委員長
　副委員長は，函館市社会福祉協議会の奥野委員と函館市町会連合会の佐藤委員にお願いしたい。

事務局（亀田主査）
　あいにく，奥野委員と佐藤委員は本日欠席しているが，指名があったので，副委員長を奥野委員と佐藤委員に決定する。
　ここで，委員長からご挨拶をお願いする。

　－委員長挨拶－

事務局（亀田主査）
　これからの委員会は，委員会設置要綱第８条第２項の規定により，委員長を議長として進めることとなるので，よろしくお願いしたい。

**三浦委員長**

委員会を続ける。協議事項「２　第３次函館市地域福祉計画策定の進め方について」，事務局から説明をお願いする。

**事務局（佐賀井課長）**

－資料４の説明－

**三浦委員長**

まず第２次計画の評価・検証があって，新計画はどうあるべきかというのが自然の流れと思う。そういった意味で，資料３では「行政ができること」として市の実績を掲載しているが，市民，地域はどうであったのか，今後，それぞれの立場から率直な生の声をお聞きし，素案を考えていく際に生かしていくことが大事である。

**小笠原委員**

第３次計画では，第２次計画の基本理念，基本的方策までも変更，改善する姿勢なのか。

**事務局（佐賀井課長）**

第２次計画の検証のほか，懇談会において現状や課題を確認したうえで，３次計画はどうするべきかを検討していくことになると思う。１次，２次計画は大体同じような枠組みであるが，３次計画は検証等を踏まえて，必要であれば変えても良いのではと思っている。委員会の協議の中で決めていくことが基本と考えている。

**小笠原委員**

函館の高齢者等の実情が変化してきていると感じているので，地域福祉の基本理念が問われると思う。皆さんが一番納得できる基本理念と基本的方策を作り出すことが大事と思う。

**三浦委員長**

この５年間は世界を含め，社会，経済情勢が厳しい方に変わってきて，子どもからお年寄りまでの事件，事故が生じてきているのではないか。基本理念，基本的方策が今後５年間どうなのか，非常に大事なことと思う。

**富樫委員**

意識調査をやってみたが，難しい言葉が使われていた。もう少し身近で具体的なことを項目にあげてはどうかと思った。

**三浦委員長**

資料５については，このあとの協議事項となるので，事務局から説明をいただいたあとに協議したい。

**事務局（亀田主査）**

－資料５，資料５－１の説明－

**三浦委員長**

地域福祉という定義はないようだが，まず市民の方が地域福祉とは何かを共通認識として知っていなければならないと思う。地域福祉ということを知っていただくことが，アンケート調査の最大の根っこの必要事項と考えた。

**丸藤委員**

調査票３ページの「問９　近所の人とはどのようなお付き合いをなさっていますか」について，これ自体は問題ないが，これからの５年間を考えると，お付き合いするのは近所に限らない。お年を召した方でもインターネットにより，近所とは全く付き合いはないが，唯一付き合っている，悩みを打ち明けられるのは九州や沖縄の人ということが十分に考えられる時代になると思う。つながりの手段として，直接会う，電話，インターネット，定期的に訪問してくれる人しかいない，全くないなど，詳しい分類は思いつかないが，普段，どういう手段でつながりを持っているかを聞くことが必要と思う。お年を召した方でもインターネットを使うようになると，付き合い方の良い，悪いではなく，現状としてどうなるかを知りたい。

これからの時代，まちづくりの基本になるのは企業だと思う。ＣＳＲ（Corporate Social Responsibility），すなわち，企業がどれだけ社会貢献をするか，昔はイメージアップ戦略のためだけで社会貢献をしてきたが，今は唯一生き残る手段として，利益を得る手段として，社会貢献をしていかなければ生き残れないという考え方で，多くの企業がこの考えを持つようになった。函館の企業はその意識がまだまだ薄いが，５年先はそのようになっていくと思うし，行政，ＮＰＯとしてもそれを促していかなければならない。アンケートにはその部分が抜けている。企業と協働し，地域福祉，福祉政策を考えていくことが必要になってくると思う。住民，地域，行政のほかに，企業を入れて計画を作っていかなければならないと思う。

**三浦委員長**

情報化社会の中で，心理的な支え合いは，近所に住んでいる人に限らない世の中になっている。地域福祉は住民，福祉関係の方も含めて，みんなでつくっていくので，企業を巻き込むのは，時代に沿ったあるべき姿ではないか。これからは疎かにできないと思う。

**岡嶋委員**

率直に言って,基本理念というのは,そうそう変わっていくものではないと思う。町会活動の中に在宅福祉委員会があるような形だが，実態は，在宅福祉委員会は，町会活動よりももっと重要な側面を持っている。直接,生死に関わる問題も含めて，そういうことの具体論を検討していきたいと思っている。

地域福祉の基本理念は１０年，２０年サイクルのものと思う。検討の余地はあるかもしれないが，あまり動くものではないのではないか。具体論の中で，市民が求めているものは何か，生活の中で必要なものは何か，どこまで載せられるか限られると思うが，そういう議論を展開していきたいと考えている。

**三浦委員長**

このようなアンケート調査に住民の方々は答えてくれるだろうか。日頃接している感触でどうか。

**永澤委員**

この意識調査については，このままで良いと思う。インターネットという話しがあったが，現状の中で，そこまで突っ込んで回答くださる方は，年齢層によって変わってくるのではと思う。

**船橋委員**

インターネットはこれから広がると思うが，ほとんどの方はこの質問で大丈夫ではないか。ただし，調査対象に企業を巻き込むのは賛成である。

**三浦委員長**

情報化社会の変化も考えることが大事と思う。

**丸藤委員**

福祉というと高齢者が頭に浮かぶので，インターネットはやらないと考えるかもしれない。しかし，子育て世代の方がどこから情報を得て，悩みを解決しているかというと，かなり高い確率でインターネットである。高齢者もスマートフォンを使うようになってきており，そのようなことも考えて調査や計画づくりをした方が良いと思う。インターネットの利用は好むと好まざるに関わらず，ものすごい勢いで増えてきており，計画の中や調査項目にそれを無視するのはあり得ないと思う。

**三浦委員長**

社会福祉法人には専門職がおり，地域の人と専門職が知識を生かして地域福祉力を向上していくなどの使命がある。地域福祉計画をつくっていく際に最も大事なこと思うので，調査票の配付先を拡大してはどうか。

**湯淺委員**

アンケート調査は他市と比較できる項目か。全国的なベースがあるのか。

地域住民の方々が変えていくという意識を問うのであれば，配付先（案）の方々はある程度関わっているので，関心は当然高いと思う。最終的に地域を変えていくのは住民なので，無作為に抽出してできないか。

**三浦委員長**

地域福祉に全然携わっていない市民の方に聞いても，答えが期待できない面があるのではと思うが，どうか。

**事務局（佐賀井課長）**

調査項目は絞り込んだ結果，このような内容となったが，丸藤委員からの指摘があった項目については検討したい。

一般市民を対象に無作為抽出して調査することも考えたが，地域福祉に関心がある方は多くないと思っており，我々が必要とするデータが得られるかどうかを考えた。地域福祉は市民，地域，行政が協力し合いながら進めていかなければならないが，キーとなるのは地域である。そういった意味で，地域で活動されている方々の意識が低いのであれば，地域を中心にやっていかなければならないので，地域に焦点を絞り込んだ。

企業については，地域で重要な役割を担っていってほしいが，調査をしても有効な回答が得られるかと考えた。企業に対する調査については期間と体制が限られているが検討させてほしい。

福祉施設への配付先としては,包括支援センター,子育て施設の二つに分けたが,そのほかの法人等への配付についても検討させてほしい。

また，アンケート調査のベースは特になく，たくさんの聞きたい項目を絞り込んだ結果このようになった。

**小笠原委員**

問３１に選択肢を追加してほしい。一つ目は「高齢の方や障がい者の方も住みやすい地域づくり」で，どの地区でこのような要望があるのか関心がある。二つ目は「障がいのある方々の後期中等教育の拡充」で，保健，福祉，衛生，教育は密接なつながりがあるが，障がいのある方の後期中等教育の拡充がこの地区の課題となっている。三つ目は「学校教育の中での地域福祉に関する学習」であり，もっと力を入れなければならないと考えている。

**丸藤委員**

後期中等教育とは何か。

**小笠原委員**

高等学校のことである。大学は高等教育機関となる。高等学校，高等部の年齢に入っている子ども達の教育の拡充のことで，義務教育ではなく，高等教育まで踏み込むのかということもあると思うが，地域福祉では大事な視点である。

**三浦委員長**

アンケート全体のバランスもあると思うが，どうか。

**事務局（佐賀井課長）**

項目に追加する方向で検討したい。

**佐々木委員**

アンケートの対象は湯淺委員と同感である。本当に活動しているところは，地域福祉の意識は高いので，無作為の方が真実がわかると思う。丸藤委員のご意見で，５年先を見据えているので大賛成である。外国は企業が主体になってボランティア活動をしている。函館は老舗の相馬さん，杉崎さんなどが行っているが，企業の力は絶大なので，もっと企業力を生かしてもらいたいと思う。

**宮本委員**

高校生のボランティアは学校の中だけでは難しい分野と思う。地域の方が高校生や学生に声をかけてくれることによって,地域で育ててもらう機会が多くなるので,企業に対するアンケート調査はお願いしたい。

**髙橋委員**

企業のボランティアでお話しさせていただくが,函館に支店のある企業が,毎年,運動会前にグラウンド整備をしてくれる。子どもの邪魔になるので，土，日曜日に計画して，きれいにやってもらっている。おかげさまで，子どもが転んでもケガをしない。土を入れたり，石灰を撒いたり，大変ありがたく思っている。そういった意味で，アンケート調査は企業も含めてほしい。

**風間委員**

アンケート調査の配付先について，まず地域から聞いてみたいという事務局の説明に納得した。

アンケート調査は２次計画策定の際にも同様の調査を実施したのか。そのときの配付先も同じにして比較するのであれば，この配付先でも納得する。

**八木委員**

少し前に，凌雲中学校と的場中学校，光星中学校が統合される案が発表された。近所に市場や廉売がなくなってきて，高齢者や障がいのある方の買い物難民の現象が出てきた。凌雲中学校は万代町，海岸町から通っており，片道３５分から４０分かかっている。的場中学校に移ると通学難民になるのではと危惧している。子どもの教育環境の整備について，行政でサービスしてもらえることがあれば，うれしいと思う。

**髙田委員**

買い物マップについて，地域ケア会議のもとで民生委員の方に協力していただき見直しの取組みをしているところである。

**亀井委員**

アンケート調査の配付先について，社会福祉施設連盟にはたくさんの分野の福祉団体が入っているので，協力いただけるのではないかと思っている。

**三浦委員長**

ご検討いただければありがたい。

**富樫委員**

アンケート調査が難しかったのは，配付先が関係者であるためとわかった。調査のための調査であって，関係者が多ければ決まったパーセンテージが出てくるとわかった。自分は地域福祉に関係がなかったから難しかったのであって，関係者は情報がいろいろ入っているので書きやすいと思った。

男女共同参画について，北海道では男女平等参画と言っており，北海道とのかかわりの中でどのように捉えているのか疑問に思った。男女共同参画は国の言葉で，北海道では男女平等参画である。男女平等の視点で地域福祉計画を考えてもらえるのが望ましいと思う。

**三浦委員長**

それぞれいただいたご意見は事務局であらためて検討してもらいたいと思う。

**事務局（亀田主査）**

風間委員からのご質問について，第２次計画の策定の際には，第１次計画の「私達ができること」，「地域ができること」の各項目の取組みの度合いを調査した。
配付先については，第１次計画の策定委員の所属団体と所属する会員の方を対象とし，個人であれば「私達ができること」，団体であれば「地域ができること」について回答いただいたものであり，今回とは，調査内容，配付先は異なっている。

**事務局（佐賀井課長）**

アンケート調査について検討するとしたが，項目のつくり方については事務局に任せていただきたい。また，企業への配付については，設問自体変えなければならないと思われるので，設問内容や，法人への配付についても事務局に任せていただくことで良いか。

**三浦委員長**

事務局にお願いすることで良いか。（意義なし）

第２次計画の評価・検証を済ませてから新計画を策定するのが自然と思うので，資料３にプラスして，計画の６項目の「私達ができること」，「地域ができること」が５年間でどのように進んでいるか承知してこれから先を考えるのが自然である。アンケート調査や懇談会を実施し，この部分の意見聴取もされるので，それが第２回目の資料として出れば良いと思っている。

**事務局（亀田主査）**

次回は９月を予定しており，あらためて日程調整させていただきたい。

**三浦委員長**

以上をもって今日の委員会を終了する。ありがとうございました。